

道央地域より新年ご挨拶

北海道統括支店 道央支店長 小西 均

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、弊社商品をご愛顧賜り心より厚くお礼申し上げます。

去年は、国内では大型台風の本土上陸や火山噴火が相次ぎ、また、道内は気まぐれな低気圧の影響で6月は長雨、9月の大雨は、苫小牧市で1時間に約110ミリと猛烈に降り気象庁は「記録的短時間大雨情報」を発表するなど、各地で土砂災害や川の氾濫などがあり甚大な被害が発生しました。被害を受けられた方には心よりお見舞い申し上げます。

これらの影響もあり、道央管内は一番牧草の適期収穫に遅れが出て、収量や乾き度合いは良好ですが、栄養価は粗タンパクやTDNが例年に比べて1～2%低い傾向のようです。また、トウモロコシは9月の大雨によって、僅かに根腐病の発生が見られましたが、倒伏も少なく収量は概ね確保と思われ、皆様におかれましては本年の自給飼料確保が出来て一安心なされていることと存じます。

ご存じのとおり、国内農畜産業は円安影響が逆風となり、飼料・燃油・素畜など生産資材が高騰、消費税の増税が追い打ちをかけ、経営環境は厳しさを増しております。

国内酪農については飼養頭数の減少、何より酪農家戸数の大きな減少により生乳生産が大幅に落ち込み、去年は異例の年度内2回という乳製品緊急輸入となりました。

日豪のEPA締結、TPPの交渉経緯も不透明な状況下、農水省は酪肉近代化基本方針の見直しを大急ぎで進めておりますが、このような転換期にこそ弊社のやるべきことは、社是といたすところの『技術と誠意で農業奉公』に戻って、皆様との信頼関係を構築し、結果として皆様の経営力強化、ひいては地域に貢献して

いくことが一番大切なことと考えております。

その具体的な取組のひとつが標茶町農業協同組合、北海道標茶町と共同設立いたしました農業生産法人「TACSしべちゃ」の立ち上げです。地域酪農モデル農場といたしまして、乳用種成牛300頭、育成牛200頭を飼養目標にして今春から搾乳を始めます。「メガファーム」で規模のメリットを追及し、弊社は輸入飼料に頼らない草地型酪農の基本となります草地管理技術の向上と乳牛の生産性向上を目指し、法人が取り組む技術課題の解決に協力する計画でございます。

また、6年目を迎えました作溝型簡易更新機による自給飼料増産と品質向上への取り組みは、各営業所(道央、八雲、旭川、豊富)で活用頂いた皆様から好評をいただき、今年も継続した取り組みとして拡大し進める所存です。

話題は変わりますが、今年は『末年』、オセアニアでは放牧草地の掃除刈りをしてくれる反芻家畜のなかまの年です、昨今の農業界の良くない出来事をきれいに掃除してくれることを今年の初夢に願ってやみません。また、乳牛のオリンピックと呼ばれる全日本ホルスタイン共進会が10年ぶりに道央安平町で開催されます。満足のいく審査結果でありますこと、また皆様の交流の場として情報交換が深まり大盛況となりますことをご祈念申し上げます。

道央支店の各営業所では、今年も農業、酪農、畜産に関する数多くの商品と技術を取り揃え、所員一同、皆様のご用命をお待ちいたしておりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、一年間の農作業の無事と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。